

市民福祉常任委員会行政視察

焼津市議会議長 鈴木 浩己 様

市民福祉常任委員会

委員長 深田 百合子

副委員長 太田 浩三郎

委員 渋谷 英彦

岡田 光正

松島 和久

内田 修二

石原 孝之

(報告者：松島)

令和元年5月16日(木)から17日(金)にかけ、

東京都立川市

千葉県我孫子市

において下記の通り行政視察を行いましたので、その概要を報告いたします。

1. 東京都立川市 「旧庁舎施設等活用事業」について

(1) 立川市の概要

東京都立川市は東京都の中央西に位置し、都心から30キロ圏、周辺8市と接し多摩地区の中心部に位置する。JR3路線、西武拝島線、多摩市モノレールの5路線が通り、交通結節点として、都心のベットタウンとして発展してきた。

人口183,923人(平成31年4月1日)うち15~64歳の生産年齢人口は63.6%、65歳以上の高齢者人口は24.3%である。

大正11年、陸軍飛行第5連隊の立川飛行場が設置された、昭和20年米軍に接收 米軍立川基地となり基地のまちとして全国に知られるようになった。その後、昭和52年米軍は横田基地に移転し、立川基地は全面返還され、陸上自衛隊立川駐屯地、国営昭和記念公園、立川広域防災基地などに転用された。

(2) 「旧庁舎施設等活用事業」の概要

昭和57年、立川市は市庁舎の老朽化に伴い庁舎建設検討委員会を設置し、昭和60年に、市は新市庁舎建設場所を返還された立川基地跡地と市議会に報告した。

平成14年立川市議会で3分の2以上の賛成により市役所の位置の変更条例を可決。

平成15年には、新庁舎建設計画に伴い「市民100人委員会」を設置し、平成16年3月までに「新庁舎建設基本構想」と「現庁舎跡地計画市民案」を策定した。

「新庁舎建設基本構想」は基本方針と建設計画での留意事項を「現庁舎跡地計画市民案」は現庁舎跡地の利用方法や活用方法を検討することとなった。

立川市はこれを受け、「新庁舎建設基本構想案」をまとめ、民間事業者から事業提案を公募、プロポーザルを実施し、計画を進めた。又立川駅南口周辺まちづくり協議会と共に市は、夢プランⅠ(南口活性化)・夢プランⅡ(敷地利用)をまとめランドデザインを策定。

プロポーザルにより採用された9社のグループによる企業体が改修工事から維持管理と運営を担う指定管理者とした、PPP・PFI事業である。

旧庁舎施設等活用事業の予算規模は、子ども未来センターに約8億円、市民会館改修に約17億円、計25億円である。

平成24年12月25日に、立川駅南口に位置する旧庁舎を「子ども未来センター」として、平成26年1月9日に「たましんRISURUホール」としてリニューアル、一体的に開発・活用を始めた。

(3) 「子ども未来センター」について

<機能>

- ① 子育て教育支援
- ② 文化芸術活動支援
- ③ 市民活動支援
- ④ にぎわい創出
- ⑤ 行政窓口

5つの機能をもつ複合賑わい拠点として、リニューアルさせた。

<施設概要>

平成24年12月12日開館 地下1階 地上2階、の3フロア構造

地下1階 スタジオ・ギャラリー・アトリエ3室・多目的室

1階 主に行政所管施設

子ども家庭支援センター・特別支援教育課・相談室・

くるりんぱ(子どもひろば)・グループ活動室・一時預かり保育室 など

2階 立川まんがぱーく・協働事務室・会議室

(4) 「たましん RISURU ホール」について

<施設概要>

立川市 市民会館

平成26年一月、新たにネーミングライツ(命名権 使用料年間1,000万円)により「たましん RISURU ホール」としてオープン

(5) 所感及び今後の参考となる事項

<各委員の所感>

- ・市民活動支援事業は29年度実績で51団体6,051人の参加、プログラム実施回数は344件と、多くの市民利用があり、にぎわい創出事業の一つのフリーマーケットなども施設内広場で開催されるなど、賑わいの創出がもたらされていると感じた。
- ・「庁舎利活用検討市民100人委員会」の設置により、市民からの意見が取り入れられ、プロポーザルの導入により民間業者のノウハウが活かされている。
- ・「子ども未来センター」の子ども・教育の支援施設が充実していた。
委員からは、グループ活動室の設置・一時預かり保育施設などが好評であった。

- ・「立川まんがぱーく」は、いわゆる大きなマンガ喫茶のイメージであった。入館料は大人 400 円・小中学生 200 円未就学児無料で、平日は午前 10 時から 19 時、休日は 20 時まで開館(休館日なし)である。また軽食・ビール、ソフトドリンク提供され、テラスや畳コーナー、押入れをイメージしたコーナーなどでくつろいで過せ、幅広い世代が利用できるよう配慮されていた。当初、「まんがぱーく」に関しては抵抗もあったと聞いたが、サブカルチャーのまち立川ならではの施設であると感じた。斬新なアイデアと、当日は平日にもかかわらず、満席の賑わいに驚いた。

<今後の参考となる事項>

- ・「立川市新庁舎建設 100 人委員会」の設置による市民参加と民間からの事業提案とプロポーザルを採用し、指定管理者による管理運営とした、
- ・PPP・PFI 事業を実施し、市民・民間のノウハウと資源の導入。
- ・子ども子育て支援施設を集中、集約することで利用者の利便性を高める事。など



2. 千葉県我孫子市

「ひとり暮らし高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業」について

(1) 我孫子市の概要

千葉県我孫子市は千葉県北西部、都心から 30km に位置し面積 43, 15 km²北側に利根川に面した自然豊かな街である。人口 132, 167 人、都心から約 40 分と交通の便の良さからベッドタウン住宅都市として成長してきた。

(2) 事業開始までの経緯

平成 12 年、我孫子市議会 9 月定例会において、議員質問で、神奈川県川崎市の新規事業「ふれあい収集」を例に、我孫子市でも高齢者や身体不自由な方に配慮した、市民サービスは出来ないかの質問があった。

答弁は、川崎市と我孫子市の年齢人口構成の違いや、近隣自治会の協力体制の違いから、自治会へごみ出し等の協力要請をしていきたいとの事であった。

しかし、翌年度から居宅介護支援事業者や介護支援課との協議、さらに民生委員協会への調査協力依頼や独居高齢者へのごみ出しに関するアンケート調査を実施するなど確実に事業化へのステップを踏んできた。

平成 14 年 5 月、検討委員会発足、支援対象者との具体的な事業内容の協議・調整を行い平成 15 年 2 月より、「高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業」を開始した。

(3) 事業概要

この事業は「我孫子市ひとり暮らし高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業実施要項」（平成 28 年 1 月告示）により行われる事業である。

<目的>

目的は(実施要項 1 条)、ごみ等を集積所まで排出することが困難な一人暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者世帯等に対し、「声掛け」を行いながら、ごみ等の戸別収集を実施することで、在宅での生活が維持出来るよう支援し持って福祉の増進を図る事としている。

<対象者>

利用できる対象者は、市内に居住し以下のいずれかに該当する一人暮らしの高齢者等のうち、自らごみ等をごみ収集所まで排出することが困難で、他に協力を得る事が

出来ないと認められるものとする。とある。

- ①介護保険法に基づき要支援若しくは要介護と認定された者又は同等の状態と認められる者、概ね 65 歳以上の独り暮らしの高齢者または 65 歳以上の者によって構成される世帯。
- ②1 人暮らしの障がい者又は障がい者のみで構成される世帯。
- ③他市長が必要と認めた者。

<収集するごみ>

可燃ごみ・資源ごみ・不燃ごみ

<申込み及び支援実施までの流れ>

事業を利用しようとする者は、申込用紙を市長に提出、提出は自書、又は親族、高齢者支援・障がい者支援の担当職員、民生委員、社会福祉協議会、居宅介護支援事業者の代筆も可。

実施場所(自宅)での市の指導担当職員との面談により可否の決定。

面談内容は、収集開始後、希望者に「声掛け」をする際の、有効な情報になる為、現在の生活内容、身体状況、買い物通院手段などをお聞きする。

<実施世帯と収集方法>

- ・ 203 件(平成 28 年 12 月末現在) 月曜木曜コース 40% 火曜金曜コース 60%
- ・ 8時から 15 時までに訪問回収
- ・ 利用者は、「ふれあい収集我孫子市」と書かれた袋にごみを入れて玄関先に出す。
- ・ 個別収集日にごみが出ていない場合、声掛けしても応答がない場合や利用者が倒れていたり体調不良を訴えていた場合など連絡の手引き(マニュアル)に沿って対処する。
- ・ 委託先業者も含め高齢者・障害者接遇マニュアルも備えている。

※環境課職員は、認知症サポーター養成講座を受講している

<事業費>

- | | | |
|------------|-------------|---------------------|
| ・ふれあい収集委託料 | 6,603,000 円 | (H29~H33 年の複数年契約) |
| ・消耗品等諸経費 | 1,838,000 円 | (車両経費含む) |
| ・職員人件費 | 4,432,000 円 | (正規職員 2 名・嘱託職員 1 名) |

(4) 現状の課題と今後の方向性

<課題>

- ・ 面談の際訪問先での駐車場の問題

- ・ 決定に関しての判断
- ・ 関係機関との連携
- ・ 認知症・痴呆症・精神障害の方への対応
- ・ オートロックマンション
- ・ 色別視力障害の方への対応 分別が出来ない方 等

<今後の方向性>

- ・ 近隣始末においても同様の事業展開を始めてきたところもあり市民からの支持は得られていると感じている。

我孫子市 「第8次高齢者健康福祉計画」 の高齢者の将来推計から今後の高齢者人口増加を視野に入れ予算計上や見直しも視野に入れ対処していきたいとのお考えを伺った。

(5) 今後の参考となる事項

- ・ ごみ収集サービスと高齢者障がい者見守りを複合的に所管部署の連携を取りながら実施している所
- ・ 委託先事業者との細かい連携が取れている所
- ・ 事業実施までの関連部署との連携
- ・ 利用者への細かい配慮 など

